

7 さかはら しんじげいのう 阪原の神事芸能 [民俗文化財（無形民俗）]

[所在地] 奈良市阪原町

[保護団体] 阪原長尾神社神事芸能保存会

[概要]

奈良市阪原町は、奈良市東部に位置し、奈良盆地東縁から大和高原へと移行する山間部に所在する。阪原町の長尾神社では、秋祭りの宵宮に神社の能舞台で、本祭（例祭日）には神社の能舞台と南明寺の御旅所で、ジンパイ（神拝）とスモウ（相撲）が神輿の前で奉納される。祭礼は現在 10 月第 2 日曜日が本祭、前日が宵宮であるが、近世には旧暦 9 月 5 日が本祭であった。

祭りの中心は六垣内から選出されるオワタリで、このなかから 7 名がジンパイの役に選ばれる。内訳は笛（1 名）、鼓（1 名）、太鼓（2 名）、ビンササラ（3 名）で、ジンパイをすませた者のうち 2 名が力士として選ばれる。

宵宮では午後 5 時頃から始まる本殿の神事後、境内の能舞台でジンパイとスモウの練習がおこなわれる。本祭では午後から能舞台で神事がおこなわれる。その後、オワタリではジンパイの笛にあわせ、太鼓、鼓、ビンササラも演奏される。南明寺の御旅所では、午後 4 時頃から本堂脇の広場にゴザを敷き、神輿の前でジンパイとスモウがおこなわれる。オワタリが神社に戻ると午後 5 時頃、能舞台で最後のジンパイとスモウがおこなわれる。

ジンパイとスモウの前には、先ず笛の三拍子にあわせて太鼓、鼓、ビンササラも左に回りながら三拍子を取り、三拍目で「ソー」と全員が叫ぶ。これを三周繰り返すと逆回り三周、おなじように奏して、終わるとそれぞれの位置に着座する。ジンパイは、鼓（1 名）、ビンササラ（3 名）、太鼓（2 名のうち 1 名）の順に一人ずつ演じる。続いてスモウがおこなわれる。

東山中では笛、太鼓、鼓、編木を用いる芸能が多く見られ、これらは神前を清める田楽芸の流れを受け継ぐものと考えられる。またしばしばこれらの田楽にスモウや翁舞がともなう。阪原の「虫払い」所作、生殖象徴を用いた滑稽的所作には病虫害防除と五穀豊穰、子孫繁栄を祈願する民俗信仰的要素が見られる。

本件は、楽人衆の渡御と田楽芸を伴った東山中における祭祀形態を典型的に伝承する重要な事例であるとともに、地縁のまとまりを基盤とした社会構造が祭礼運営と結びついており、山間農村における伝統的祭礼における神事芸能の継承を示すものとして重要である。



ジンパイ



スモウ